

これで
ナットク!?

為替のあれこれ

第4回

為替差益・差損とは?

日本の投資家が外国の資産に投資を行う場合、その損益には投資した資産の値動き以外に、為替相場も大きく関係してきます。第4回は、為替の差益・差損についてみていきましょう。

為替相場によって、バッグの値段が変わる!?

まずは、円高・円安についておさらいしましょう。

為替相場は、需要と供給の関係で日々変動します。他通貨と比較し、円の価値が上がれば円高、円の価値が下がれば円安となります。この為替相場の変動は、モノを輸出入する際などの値段に大きく影響します。

[為替相場とモノの値段の関係のイメージ]

海外で1,000米ドルのバッグを買いました。日本円に換算するといくら?



※上記はイメージであり、すべてを説明したものではありません。

ちょっとひと息

have seen

通貨に序列?

「米ドル/円」や「ユーロ/米ドル」といった表記をみたことはありませんか?

この表記ですが、例えば米ドルが先にきたり後にきたりなど、世界共通のルールがあるんです。

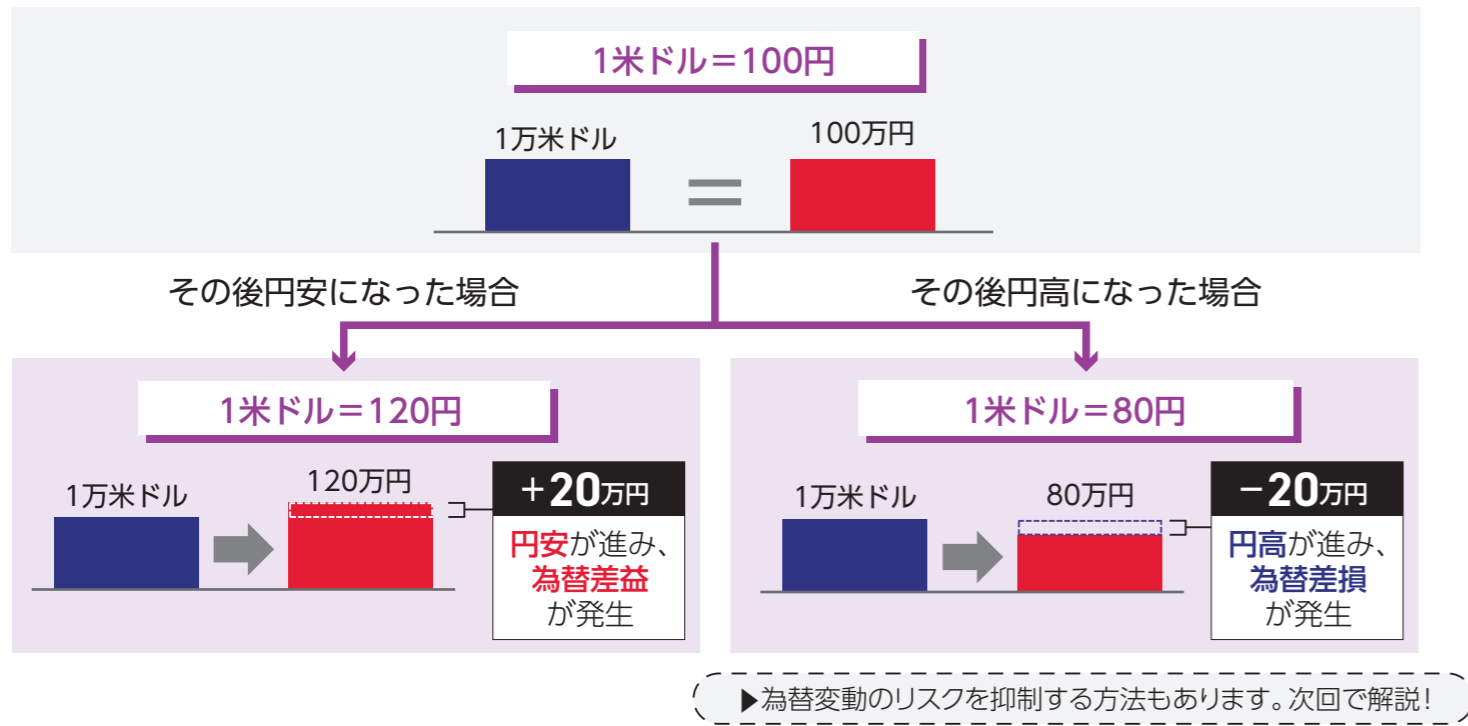
EUR/USD	1.0585	+0.50%
GBP/USD	1.2336	+1.23%
USD/JPY	134.91	-1.72%
BRL/JPY	26.67	+0.63%
USD/SEK	10.1046	-2.08%
EUR/GBP	0.8603	+0.13%

詳しくはP2-3のコラムをみてみてね▶

為替差益・差損 について

為替差益・差損とは、為替相場の変動によって得られる利益、または被る損失のことをいいます。

[為替差益・差損のイメージ]



外国資産への投資、為替相場にもご用心

外国資産に投資を行った場合は、為替相場も大きく関係します。投資した外国資産の値動きに加え、為替の変動も最終的な評価額に影響します。

[外国資産と為替の変動による損益の関係]

外国資産の価格と為替の変動の影響で、当初の投資額よりプラスとなれば○、マイナスとなれば×

	外国資産が上昇した場合	外国資産が下落した場合
円高が進行した場合	資産上昇幅 > 円高の進行 : ○ 資産上昇幅 < 円高の進行 : × 外国資産が上昇しても、円高がそれ以上に進んだことで当初の資金よりマイナスになります	×
円安が進行した場合	○	資産下落幅 > 円安の進行 : × 資産下落幅 < 円安の進行 : ○ 外国資産が下落しても、円安がそれ以上に進んだことで当初の資金よりプラスになります

Column

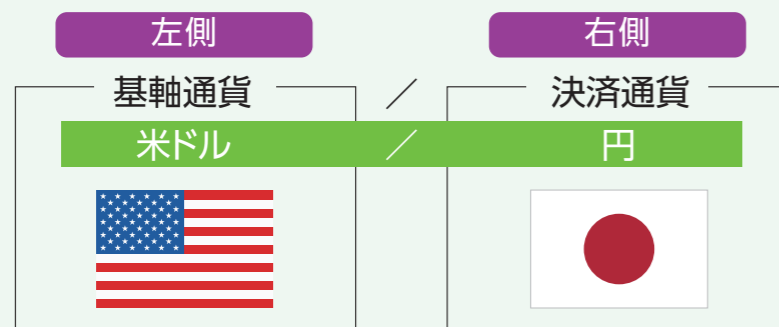
通貨表記の順番、世界共通のルールがあるんです

「米ドル/円」などの為替相場の表記には、あらかじめ世界共通で決められた序列があり、表記の順番にルールがあります。

また、「/」を挟んだ右側・左側の配置にもきちんとした理由があります。

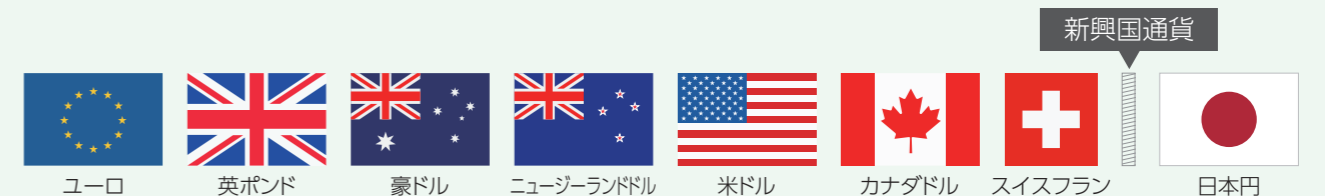
2つの通貨を比べたとき、序列の高い通貨を基軸通貨とし、左側に配置します。

左側は基軸通貨、右側は決済通貨と呼ばれます。



例えば「米ドル/円」という表記の場合は、米ドルの方が日本円より序列が高いので左側になります。

記載順のルール (通貨の序列)



表記の順番は権威性などにより世界共通になっており、左に行けば行くほど強く、右側が弱くなっています。(ただし、日本は例外)

この順番は、金融世界の歴史が関係しています。

金融世界の中心が長らくロンドン (英国) 市場だったことから、英国通貨のポンドは序列の上位に位置しています。豪州・ニュージーランドは、国旗の中に英国国旗が描かれている通り、旧英国領だったことから、この2カ国の通貨が3位、4位と続いています。また米国やカナダも旧英国領だったため、順番が優先されています。その後EU (欧州連合) が発足し、英国も加盟したことで、ユーロが序列の最上位となりました。

日本円が世界で3番目の流通量であるにもかかわらず、新興国通貨を含めても常に右側なのは、円の通貨単位が海外の通貨単位と違い、1通貨単位が3桁表示*となっていることが理由となっています。

*米ドルやユーロなどは小数点より上は1桁 (例: 1ユーロ=1.12米ドル) ですが、円は「100円」のように3桁となります。



投資の力で未来をはぐくむ

— 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項 —

投資信託に係るリスクと費用

- 投資信託に係るリスクについて 投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
 - 投資信託に係る費用について [ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]
 - お客さまが直接的に負担する費用 購入時手数料：上限3.85%（税込） 換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。 信託財産留保額：上限0.5% ●お客さまが信託財産で間接的に負担する費用 運用管理費用（信託報酬）：上限年率2.09%（税込） ※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。
- ※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

ご注意事項

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。●当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。●当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。●当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。●投資信託は、1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいづれもありません。3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。



アセットマネジメントOne

商号等：アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第324号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会